

中空知ふるさと市町村圏議員研修会

研修日 7月6日

研修先 赤平市

講演「思いは招く夢があればなんでもできる」

講師 株式会社植松電機

植松 努 氏

長名 實

植松氏は、子供のころより本が大変好きな少年で、のちに読書好きが講じ、紙飛行機をつくる本と出合う。紙飛行機が好きで宇宙やロケットに憧れ、大学で流体力学を学び、卒業後は、名古屋で航空機を設計する会社に入社したものの夢を持たない現実じみた仕事に嫌気がさし、地元赤平に戻り父の会社「株式会社植松電機」に入社することになる。地元に戻り、幼いころからの夢だった宇宙への憧れを捨て切れずカムイ式ロケットの研究を進めるにいたった。

北大の永田教授に出会い、北大とカムイ型ロケットの共同研究を開始する。2008年にはカムイロケットを1年間で18機を打ち上げる。社員は18名しかないが、強い絆

で結ばれた。全員が夢を実現するために勉強し、受身ではなく、仲間を信じることは自分を信じることであり、失敗を恐れず、あこがれは未来を明るくするパワーであるといつまでも考え続けることが必要であり、たえず前に向かって歩くことが夢の実現となると締めくくった。

市町村議会議員政策講座（政策基本コース）

研修期間 7月9日から13日

研修先 千葉県千葉市

西内 陽美

7月9日から13日の日程で千葉県にある市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）で開催された「市町村議会議員政策講座 政策基本コース」を受講した。講師に5名の大学教授と総務省の官房審議官を迎え、全国19都道府県からの受講者44名が6科目の講義と課題演習に取り組んだ。

地方分権改革・議会改革とそれぞれの展望、新たな公会計制度を柱に据え、最新の情

報や実際の自治体の例を提示しながらわかりやすく説明していた。また、

地方分権改革が進んでいった場合に大きく変わっているだろうとされる議会のあり方については、国の関与・税制のコントロールから積極的自由を確立するために省庁別・局別の縦割りの隙間を議会で議論すべきではないか。

議会改革における議会の責務としては、単にチェック・議決だけではなく自治体運営のプロセス（施策の実行、実行後の評価）にまで関わっていくものであり、議会が政策議論をする場であるのだから、議員には政策過程の技術と知識、政策形成（提案）・実施・評価（監視）の能力が求められる。

財政分析の手法とポイントとして、財政分析は、より詳細な調査が必要な事項・分野を見つけて出すことが目的であり、財政上の「やりくり」を明らかにし、「わかりやすい開示」を求めて行くことが重要である。

課題演習では「議会報告会のあり方」をテーマに討議を重ねた。参加・発言した住民

と、議論そのものへのフォロー、議会がどう取り上げていったかを公開することの重要性を確認した。

反芻することで理解を深め、今後の議会活動に反映させていきたいと考える。

町民の皆様には、貴重な財源にて今回の研修に参加させていただき、心から感謝を申し上げます。



西内村アカデミー 市町村議員政策講座 政策基本コース 第20期第1編 2012.7.9-7.13

編集後記

今春、11行政区で議会報告会を開催できたことを嬉しく思っている。この席上で町内にある空き家に関する意見が寄せられた。町の景観を損なう、高齢化や景気低迷で解体費が容易に負担出来ない等の声であった。

私達は早速、現地調査や担当課に係る資料提出を求めるなどの調査活動を実施した。

このような経過を経て、議会が政策立案まで到達できることが重要であるが、本町議会は残念ながらそこにいたらなかった。

今回は、一般質問の中で空き家問題を提起（提言）し行政側に対応を委ねることにした。町長から関係条例制定を確約する答弁があり、町民の声が町政に届いたことを確信した一瞬であった。

（青田）

【議会広報特別委員会】

委員長 青田 良一
副委員長 山田 秀明
委員 笹木 正文
安中 経人
西内 陽美